



広重版画より 三島 朝霧

## 第2402回例会

2024.9.11.3晴

### 楽寿園清掃例会

司会 南木一仁君

#### 会長挨拶

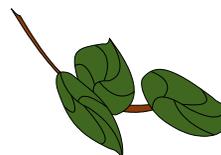
会長 鈴木正二君

本日は11月28日の移動例会で、職業社会奉仕委員会の楽寿園清掃作業です。台風の影響で天候が心配されましたが、今の天気予報はよく当たりますね、素晴らしい天気になりました。ロータリー活動が続いていますがご協力ありがとうございます。私は机の上の片付けはよくできないですが、掃除や草取りは好きなんです。掃いたところや草をむした後が歴然と現認できるからです。それも大人数で協力してかかるとみるみる間にきれいになるところに感謝します。協力し合って宜しくお願いします。終わった後は園内に入って、国際交流オータムフェアを楽しんで下さい。

#### 出席報告

|     | 出席総数  | 出席率    | メンバー  | 出席正率   |
|-----|-------|--------|-------|--------|
| 前々回 | 35/46 | 76.09% | 38/46 | 82.61% |
| 今回  | 29/46 | 63.04% | 会員総数  | 53名    |

欠席者 秋元君、岩崎君、小川君、川名君、木村君、窪田君、栗原(達)君、栗原(康)君、須田君、諏訪部君、千葉君、増田君、町野君、森藤君、矢野君、渡邊(聡)君、和田君



## 楽寿園清掃例会



## 卓 話

### 今生きていることのありがたさ

南木一仁君

本日2回目の卓話になります。実は昨日が僕の誕生日で53歳になりました。今日は50年くらい前に経験した話をしたいと思います。

3歳ごろまでは股関節の発育が悪かったらしく、足に変な器具をつけられていたそうです。立ったり座ったりということが出来なかったようで、3歳の時に撮った記念写真は椅子に座って撮っています。小学校には上がっていきなかったので、5歳のころだと思います。歩けるようになってもろくなことじゃないもので、交通事故に遭ってしまいました。100%自分が悪いのですが、その日は母方のおじちゃん、おばあちゃんの家遊びに行くことになっていました。叔母さん(母の姉)がおじちゃんたちと同居していたので叔母さんが僕を家まで迎えにきてくれて出かける予定でした。叔母さんは車の免許を持っていなかったのバスに乗って迎えに来てくれて、バスでおじちゃんの家に行く予定でした。久しぶりにおじちゃんの家に行くということで、嬉しかった僕は当日子供用のサングラスをかけていました。(当時から調子乗りでした。)子供用のサングラスといっても薄くて白いプラスチックのフレームに青か緑のセロハンが貼ってあるようなおもちゃです。近くの神社の前にバス停があり、バス停に行くには商店街の通りを抜けていく必要がありました。田舎の商店街なので、一方通行の道路で信号も横断歩道もない道です。叔母さんが先に向こう側に渡り、その後自分も無事に道路を渡り終えたのですが、走って道路を横断したため、道路の真ん中当たりでサングラスを落としてしまいました。アホな僕はそのままサングラスを取りに無い戻り、ちよど走ってきた運送屋さんのトラックにはねられました。トラックにはねられた瞬間から意識がなかったのですが、今でも鮮明に覚えているのは行ったことも見たこともない景色なのですが、当たり一面の綺麗なお花畑の真ん中にお釈迦さんか菩薩さんのようなものがポツンと立っている景色です。一瞬あの世に行きそうになったのか、その景色が見えたから助かったのか、もしくは他の景色が見えていたら死んでいたのかは未だに分かりません。商店街の布団屋さんの社長が事故を目撃していたのですが、小さかった僕は、はねられた場所から10メ

ートルほど向こうまで飛ばされて落ちたそうです。一縮こいた叔母さんは、てっきり僕が死んでしまったと思い、猛ダッシュで僕の家に戻って行ったそうです。2階のバルコニーで洗濯物を干していた母親は、見送ってからもの5分しないうちに、半狂乱になった姉が戻ってきて「ごめん。あの子を殺してしまいました。」と言って家にかげこんできたので、あの時ばかりは全身の血の気が回ったと言っていました。僕を見てくれた病院の先生の話によると、地面に落ちたとき最初に頭をぶつけていれば即死だったかもしれないとの事ですが、運よく左の肩から落ちて一命をとりとめたようです。(どまよえ頭も打っているとは思うので、あの事故の影響で未だにちよと頭がおかしいような気がします。)完全に意識が戻るまでの間に、意識が戻りそうになった場面がありました。自分の顔の上にはまた水が落ちてきて、「雨でも降っているのかな」と思い、一生懸命目を開けようとして声も出そうとしましたが、ほんやりと意識があるだけでその時口は意識は戻りませんでした。後から聞いた話では、あの時雨が降っていたわけではなく、病院の廊下の長いすに母親が僕を抱いて座っていた時に、ぼろぼろ流した涙が全部僕の顔に落ちてきていたという事みたいです。病室で完全に意識を取り戻し、開口一番父に「お父さんごめんなさい。」と言ったらいいです。(4、5歳の僕はずいぶん素直で良い子だったようですが、どこでどうひねくれたのか50年経ってこんなオッサンになってしまいました。)

結局、その事故で一番大きな怪我は左の鎖骨骨折でした。一月くらい、たすきをかけるように左肩からお腹の上までギブスを巻かれていました。夏の暑い時期にも関わらず、お風呂に入れなかったので、毎日母親が体を拭いてくれました。背中が痒くてたまらないこともあり、母親がギブスの間からさいり丸をつこみ、一生懸命背中をかくてくれた事もありました。あの時の事故で死んでしまえば今の場はいりませんでした。この三島西ロータリーの皆さんと出会えたご縁を大事に、あの時助かった命を大切にこれから先も生きて行きたいと思ひます。